

## 告 辞

本日、東京農工大学を卒業する皆さんに、東京農工大学の教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。

本日卒業される学部生は、農学部三一四名、工学部六〇九名であり、本学から巣立ち行く学部卒業生の総数は九二三名です。本日は皆さんの学部卒業をお祝いするために、本学同窓会会長、副学長、監事、名誉教授、研究院長、学府長、評議員などの方々にもご臨席いただいております。卒業証書を授与されました皆様はこれまでの研鑽と努力の結果として本日を迎えられるました。我々一同、心よりお祝いを申し上げます。同時に、皆さんをここまで支えてこられたご両親をはじめとする御家族の皆様にも、心からの敬意を表し、かつお祝いを申し上げます。

大学生活は高校時代までとは異なり、みずからの責任と自覚のもとで、自らの生活を企画する自由を享受できるものです。その自由な学生生活を通じては、多くの友人を得たり尊敬すべき人に出会ったり、専門書以外の本に啓発され、生き方そのものに大きな影響を受けたこともあったものと思います。何事にも瑞瑞しい感覚を持つ世代の皆さんは、東京農工大学という舞台でこれら様々な経験を積まれたことにより、人間的に大きく成長されたものと思います。そのような皆さんを東京農工大学の卒業生として社会に送り出せることは、我々の大きな喜びであります。

「教育とは自分の頭で考えることを教えていくことだ」といわれます。学部教育は、一つの狭い分野の専門家を養成することを目的にしたものではありません。農学や工学という広い分野の中で、自ら考え、進んで行くのに必要な基礎力を蓄えることを主な目的にしたものです。皆さんは若く、色々な可能性を秘めており、いわば万能細胞といってよいでしょう。一つの分野の専門家というには未だ十分ではありませんが、未知の分野や課題に独力で立ち向かう基盤を身につけておりますし、その可能性は自らの意思により十分に引き出すことができるでしょう。皆さんがこれから歩もうとする道は人それぞれに異なります。引き続き大学院に進学し、より高度な専門知識を身につけ、将来の研究者を夢見て大いに胸を膨らませている方々もおりますし、これまで大学で学んだ知識を生かし社会での活躍を夢んでいる方々も多いはずです。皆さんは農工大学で生まれ、本学の基本理念である持続発展可能な社会の構築を目指す MORE SENSE という遺伝子を持った可能性豊かな万能細胞なのです。そのような皆さんには、「学問に王道なし」といわれるように、日々の着実な積み重ねこそ大きな力となることを自覚していただきたいと思います。それぞれの道は異なるとしても、自ら選んだ道に大きな希望を抱いて成長して行って下さい。

ところで、正義感の強い年代の皆さんに今の世の中がどのように見えていますでしょうか。正義の「義」とは、長い経験によって、社会的によいと公認されている筋道、あるいは利欲に引かれず、筋道をたてる心」を意味します。その「義」に欠けることが昨今多すぎると感じているのではないのでしょうか。食品をめぐるごまかしが相次いだのはつい最近のことであり、海外でも同様な問題が多発しております。テレビ番組における捏造問題や官界における汚職問題、政財界の癒着問題、社会保険庁における年金データ改ざん問題などなど、個人レベルから組織を挙げての義にもとる行為が相も変わらず多発しております。それを実行している当人は義にもとる行為であることを自覚しつつも、それを思い留まる倫理観に欠けていたためといえるでしょう。我々はこれを反面教師とすべきです。

「真実」の「真」と「実」、「誠実」の「誠」という文字はいずれも「まこと」と読み、どれも「一杯に詰まった状態」、あるいは「うそや欠け目がないことを意味します。このまことに欠けるものも大きな問題となっております。アメリカのサブプライムローン問題はその最右翼であり、それに端を発した金融危機と経済的混乱は全世界に大きな影響を及ぼしております。不動産価格が右肩上がりです。上昇し続けることを前提にしてローンを組むな

ど、冷静になれば破綻がいずれ来る虚構であることは誰の目にも明らかなはずですが、現実にはそれがアメリカ経済を動かすベースとして社会に定着してしまいました。多くの人がある流れに乗ってしまい、それが実すなわちまことの無い虚の上に成り立ったバブルであることに気付くには永い時間が必要でした。それに気づいたときには、事態は深刻な状況に陥っていたわけです。虚であってまことではないと見抜いた人がどの程度いたでしょうか。少なくとも、バブルの初期の段階でそれを見抜けた人はほとんどいなかったといわれて良いでしょう。まことに欠ける経済システムの上で虚構の繁栄を少しの間謳歌した結果が今の世界経済の破綻です。いかに本質を見抜く力が重要であるかを大きな代償を払って我々は学んだわけですが、これも技術者としての皆さんにとって一つの大きな教訓になることです。

環境問題、地球温暖化、エネルギー問題、食糧不足問題など、グローバルな重要課題は皆さんの専門分野に属しますが、ここではこれから多くのビジネスチャンスに恵まれると思います。それがビジネスとして成功し社会に貢献できるためには、しっかりとした科学技術上の成果をまず産むことが基本であることは当然ですが、ビジネスにはそれ以外の要素が二重三重に係ってきます。本学の卒業生である皆さんには、技術的成果だけでなく、それを含み全体が社会とどう関わるのか、その本質を見抜き、義とまことに根差したものであることを常に確認して活動されるよう期待したいと思います。「まこと」の心を常に失わず、まことを見抜く力を養い、まことに基づく行動をして下さい。

東京農工大学では、これまでの永い伝統を礎に、しっかりとした教育と高度な研究を行う世界の教育研究拠点大学となることを目標にしております。幸いにも、本学は各種の客観的なデータからも高い評価を受けつつあり、順調に目標に向かって発展していると考えておりますが、これに満足せず、我々は皆さんの母校としてさらに誇れる大学へと一層の努力をしていく所存です。本学を巣立っていく皆さん、皆さんにも本学をさらに発展させていく大きな力となっていただきたいと期待しております。大きな力になるとは、皆さんに社会で大いに活躍していただくことであります。それにより、皆さんご自身と共に本学の名声も高められることになるからです。皆さんのこれからの活躍に大きな期待を抱いております。

最後になりましたが、二十六名の外国からの留学生の皆さん、皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、四年間の学部教育を貫徹されました。これまでの努力に深く敬意を表します。これからは本学で身につけた知識や技術を母国の発展のために大いに役立てて下さい。さらに、皆さんの母国と日本との友好の架け橋となっていただくよう、お願い致します。

それでは、皆様にはこれまでに修得された学識と技術を存分に活かしつつ、義とまことに根差した高い目標に向けて活躍されますよう祈念し、また、東京農工大学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げます。ここに告辞といたします。

平成二十一年三月二五日

東京農工大学長 小畑 秀文